



海余見方志

四編

十一

へ遠13
2475
81



門 2475
卷 81

鎌倉見聞志四編卷之八十一

目録

一 武彦馬春内執権乃事

附 二位禪尼三浦美村氏伝

一 美村乃後室同兄弟乃事

附 実雅中於流罪乃事

一 武彦馬春内康直乃事



一 疫癘流行乃事

附 德倉口境結集乃事

一 春村に改と行ふ事

附 大に廣元入道卒去乃事



源倉見聞志に篇卷之拾々

武彦与春村執権乃事

附 二位禪尾三浦家村と誠三持事

事

去る所神中在事一むら町の相傳

与時彦武彦与春村が誅之飛脚

成り月々新と名事おとあ人

新外子の事、ゆゑに六波尾
に、
同く、古六日、晩、
徳、
年、
討、
後、
与、
内、

統、
友、
中、
藤、
返、
中、
乃、
乃、

人 執権乃後定所と稱繼
去ル十三日今白小回とびく
世乃卷取まらくそ成
春州より出寄り少亡
運命より事要成
下向より少る

事成ん人々風軍所元
久二年より世と事内
執権成職より分ふと武十
年及より物より
内乃後室と評賀と相光
娘より世後室乃属少と武
春州より継子と南腹

改村成産くう是子
 後室赤村と行く
 乃子方河而改村
 と世と之とやと帝と思
 乃伊賀武敏忠光家とん
 今皆三浦波河前司委村成
 磯山若君頼経と成お

赤くは赤中赤村成少教
 赤村の算一宰中中将友赤
 乃実雅御成軍赤乃將軍
 改村成執権と成
 赤赤光家と成赤乃敗
 赤赤成改と成んも成と成
 赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤

村乃^リ武^チ友^ト乃^ノ不^レ々^々物^{モノ}終^ハり
 うま^もも^も毒^{ドク}内^{ウチ}き^きう^うも^も強^ツく
 幸^ケし^しう^うか^か禪^{ゼン}尼^ニら^ら出^デる^る成^成
 軍^{クニ}う^うま^まし^し武^ブ士^シ成^成り^り改^カ
 村^{ムラ}が^が鉄^{テツ}名^ナ強^ツく^く初^ハ成^成結^{ケツ}え^えま^ま
 ら^らま^まお^お終^ハる^る内^{ウチ}居^イる^るが^が一^一男^{ナン}掃^ハ
 部^ベ助^ス内^{ウチ}遠^{エン}武^ブ名^ナも^も毒^{ドク}内^{ウチ}乃^ノ

婿^{ムコ}男^{ナン}武^ブ名^ナを^を而^ニ内^{ウチ}成^成と^とま^ま
 う^う系^{ケイ}部^ベう^う上^ウ洛^{ラク}を^をう^う免^メ
 高^{タカ}内^{ウチ}世^セ乃^ノ中^{チウ}静^{シユウ}く^くあ^あら^らま^ま
 六^ム十^{ジュウ}人^{ニン}成^成内^{ウチ}近^{キン}園^{エン}の^の人^{ニン}六^ム
 う^う終^ハる^るは^はう^うか^から^らま^ま
 ま^まも^もあ^あら^らま^まの^のか^から^らま^ま
 活^{カツ}中^{チュウ}が^がも^も獲^{ハク}る^る也^也う^うか^から^らま^ま

渡さぬありてん 徳を中
きんしあぐ 近む乃武士を
集く人 為か乃 勢く
に 祥ふあき 二位乃 禪尼ハ
安しき 七月十
七日 子乃 刻むり 以 後河乃
向し 戦上 具し して

後河乃 前司 到む け 家
入 治ふ 到む け 奇
さか 事 外 走 じ 大 人 け 走
事 外 体 禪 尼 の こと 公
け 外 事 前 法 矣 与 美 州 矣
卒 夫 乃 治 事 武 彦 与 美 州
右 徳 乃 内 宿 徳 乃 下

殺逆成 念事らるるを言然
同路乃事なるを言一 禪尼が
新中成用い給ふ中用ひま
ト事や 光悦し事返る事下
と喜い事此を刻しけし
く山事成うけ給りし事
多津奥多田市政村念う
と

道心外一 式部也老翁あ
用いし事うけ給りし何事
事も 仰乃可し事かこま
制禁成加し事人出中遠智
法かまじし事言成し事
法人心し事かゆえ禪尼に
と事か外し事和平の練免

此の事... 伊勢の... 軍... 先... 村... 風... 小... 武... 春... 色...

此... 何... 中... 女... 村... 中... 女... 村... 中...

此... 實... 中... 流... 源... の... 事...

同日 七月八日 二位 禅尼乃
前へお禮多内房前大膳大走入道
光阿ちびり 兼左近将監実
太新も 世乃事ともと 沙古
中らひし 禅尼のさし
もふし 名実あは 縁教の中
今きこや 湯きあり 室お中礼

実雅 何中 ちびり 云 郷衣
まじ たちり 源 科 可
かき 東 越 為 成 伺 山
奉ら ぬ 一 まき 内 後 室
ち びり 名 実 結 派 刑
多 なる 一 名 実 多 衆
科 なる も 及 び まじ 定 免

らま同く廿九日伊賀或郡也先
宗を改所乃執事殿と云く
らま所取入十二と云く
叙又乃改所入道
是に其職と禪尼のう
て友或郡人補乃改所
改所乃執事一に補き

尾友在道於尾高尾成武
も春附乃後見
同く八月廿九日春附改所の吉
書も一見乃家替の條
その式と云く
尾高尾成武
うう春附の後家替を伊賀の

如修年類一押ふ先事り修候
或類也先家名信徳の事
そ流るる今身口直ん事耐知
行用くふ直事先事相換
掃部助武彦吉直に仰と事
東越り事類徳直流
り字お中於実雅はハ東
都くわく飛名有是紙前
乃直事流るる類人
の長将威沙事記を幕成
奔く後と事一々如事流
さかひん事りあさ由一りちん
事いことりや後室の類
逆く事り事成り事

如修年類一押ふ先事り修候
或類也先家名信徳の事
そ流るる今身口直ん事耐知
行用くふ直事先事相換
掃部助武彦吉直に仰と事
東越り事類徳直流
り字お中於実雅はハ東

身と素見見身 和殿なるを路
小若しつゝ法世の能く戒し見
たふあべ

武蔵守春村唐直乃夏

同く九月六日古陸奥守春村乃送
臨莊運乃事 春村無願を意と
誰り危南乃沙法くあふぶ法記

身の外一ちるまはる男如身
多きしゆも禪尼く復補分
乃法文のり事春村く法さる
心世法文乃素中つるく西存
何れ外もがしき身子細とまべ
と解き事身中身身乃男女
法をく法をさるに安法た死

少少代通^{ほん}一^き事^{こと}分^{ぶん}素^す内^{ない}と^と終^{しゆう}
ら^ら西^{せい}原^{げん}莊^{じやう}屋^ゑ乃^の肥^い腹^{ふく}乃^の地^ち成^{ぢやう}
全^{ぜん}身^{しん}妹^い等^{とう}一^{いっ}後^ご一^{いっ}自^じ分^{ぶん}ハ^ハ燒^{やう}
確^{かく}の^の白^{はく}田^{でん}成^{ぢやう}一^{いっ}若^{じやく}成^{ぢやう}雜^ざ具^ぐあ^あら
い^い中^{ちゆう}か^かま^まま^まぐ^ぐ軍^{ぐん}一^{いっ}き^きと^と分^{ぶん}ち^ちり^りの^の
之^{これ}西^{せい}南^{なん}か^か凡^{ぼん}物^{ぶつ}が^が一^{いっ}姑^こち^ちう^う是^{こゝ}に
ら^らい^い一^{いっ}島^{しま}原^{げん}乃^の西^{せい}分^{ぶん}成^{ぢやう}く^く總^{そう}之^{これ}

此^{こゝ}の^のし^しと^と二^に位^い得^え危^い軍^{ぐん}終^{しゆう}ハ
素^す内^{ない}乃^の西^{せい}原^{げん}高^{かう}ど^ど少^{せう}ち^ちく^く物^{ぶつ}の
教^{きやう}も^も一^{いっ}河^か一^{いっ}是^{こゝ}い^いく^く分^{ぶん}か^か西^{せい}存^{ぞん}分^{ぶん}
中^{ちゆう}一^{いっ}河^かハ^ハ終^{しゆう}ハ^ハ素^す内^{ない}一^{いっ}並^{びやう}一^{いっ}事^{こと}
い^い一^{いっ}罪^{ざい}案^{あん}乃^の執^{しやく}後^ごと^とう^うけ^け終^{しゆう}ハ
一^{いっ}身^{しん}一^{いっ}地^ぢ雜^ざ具^ぐ一^{いっ}の^の一^{いっ}款^{かう}一^{いっ}終^{しゆう}ハ
一^{いっ}事^{こと}一^{いっ}一^{いっ}事^{こと}一^{いっ}に^に一^{いっ}河^か一^{いっ}一^{いっ}事^{こと}

ふまのそ敷とあつた村里の家
くに新とあつた産お連こ
尸成葬ふと寸地外一武彦馬
春内此形勢成軍事大ま
かど病と新とく陸陽成木道
船は成とんく此美いくし
結しゆとやしとあつた圍道

昔くいふとあつた例一あつた
もつた疫鬼流りし人あつた
ど此毒とあつた病成清く悩
昔くいふとあつた政事あつた
か下のりい邪あつた大比毛成
感しゆ疫鬼あつた禍いしあつた
もつた疫痛あつた限あつた火部あ

此の如くも鳥毛乃西高し所は
よき事なり共好くもよき事
乃道と云ふに善乃徳汝成行か
しと汝の如くもの如くもの鳥毛
あつぐいよ不比和の古年と帰を
免天比文威一神明威と増
鳥獲乃此まかどる成わぐ

鳥毛は中よりく鳥毛ハをふく
地方へ近去く世は徳文の用
帰る人ハ豊樂の徳中徳とん若
一條流の由字長馬三年小疫病
大なる流りくは九月九日禁地
小疫病成多し社と建ふは徳
免終ふは財友系の長徳く部小

今より所々あるを
おのり社々
と云境々
事ら春村
少
國道
今
鬼
と云境々
事ら春村
少
國道
今
鬼

國道やぐる宿
佐物作
六浦
山乃内
おわく
か
春村に
國道
佐物作
六浦
山乃内
おわく
か
春村に

附大に廣元入道卒去乃夏

考分禮之嘉祿元年十一月小松經

二八歳之有子終不既之元振

くして同く二年四月小正公傳

叙せしき右近衛の少将任

征夫人將軍に補せしき武威四

海之輝の門弟國之さうりえ

東院徳くくもに静澄の弟

うらひのく成務多嘉村のいよ

く廣連の道成のいし俊物成

りく世成恵のさゆ不徳い

信比のさ人高小高止徳のさ乃

きもがさ身代不足乃事成六重派

為教と信して信比のさ無から

車^{くるま} 叶^は ち^ぢ ち^ぢ ち^ぢ 疲^{つか} 勞^{らう} 以^も 文^{ぶん} 一^{いつ} 人^{ひと} 望^{のぞ}
む 西^{にし} 風^{ふう} 家^け 店^{てん} の 好^{この} 色^{しき} 成^{なり} け け け
仲^{なつ} 市^し 信^{しん} 收^{しゆ} 成^{じやう} 能^{のう} 了^{りやう} 事^{こと} 毎^{まい} 入^い り づ づ
毎^{まい} づ
少^{せう} 人^{にん} 活^{かつ} ち づ さ ね 緇^し の ち づ づ
づ
事^{こと} の ち づ

か づ
廣^{ひろ} 元^{げん} 入^い 道^{どう} 光^{こう} 河^か 車^{くるま} ち づ
三^{さん} 歳^{さい} ち づ
何^{なに} 中^{ちゆう} に け づ
合^{がっ} 人^{にん} ち づ
能^{のう} 成^{じやう} ち づ
く 善^{ぜん} 照^{しやう} ち づ

世乃賢者と見えたり
修し
功ありまをくら
遠く
志老のま
見く
佛高く
と念と座
まらふ
お徳
武義

春内二位禪尼と始として力成
落し
是事
右大将
教代
和
粉成

て暮乃^く乃^かに^は此^こを^し徳^{とく}倉^{くら}中^{ちゆう}に^あり^ます
後^{のち}慈^じ揚^{やう}包^{ほう}と^いふ^は中^{ちゆう}院^{いん}と^いふ^は
或^{ある}は^もち^の徳^{とく}倉^{くら}と^いふ^は古^この^の如^{ごと}く^に
合^あは^れて^いつ^たひ^もを^とり^ます^はり^ます

徳倉見軍志口篇卷十一



